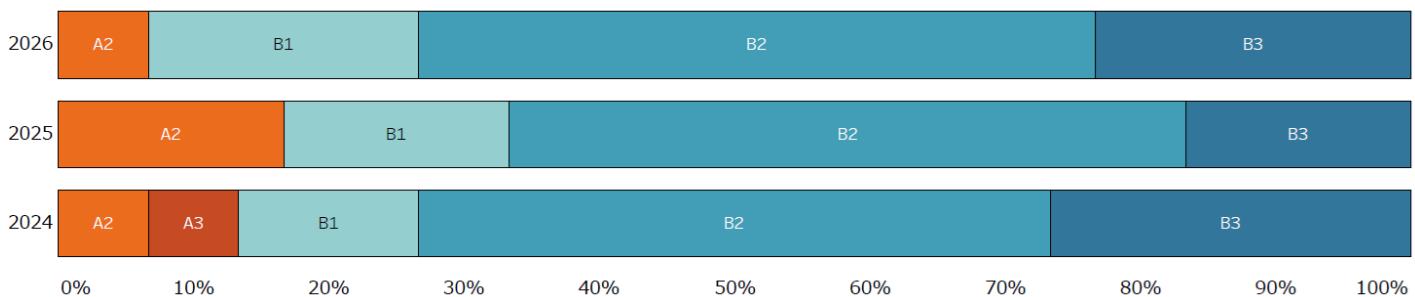


## 2026年 麻布 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようにになります（Aは基礎的な知識・技術、Bは論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。高度な論理的思考力が求められるB2、B3の問題が半数以上を占めています。2025年は大問5題構成でしたが、2026年は大問6題構成となりました。平面図形、速さ、場合の数など、麻布で頻出の分野があるため、過去問研究に取り組み、問題の着眼点を確認しておきたいです。



大問1は、平面図形の問題でした。「面積の和」に注目する問題は、麻布でよく見られます。大問1に配置されていますが、手がかりがつかめず焦った受験生も多かったと思います。一旦後回しにして、後で取り組み直してもよいと思います。五角形ABCDEの面積が求められるので、内部を5つの三角形に分割して考えます。「三角形ABPの面積=三角形APEの面積+三角形CPDの面積」に着目するのがポイントです。大問2は、麻布で頻出の食塩水の問題でした。2026年は、3種類の食塩水の順次混合でした。最後にできたAに着目して、混合の手順をさかのぼっていくことで、比較的スムーズに答えにたどり着くことができます。ただし、途中の値が複雑になるため、計算には注意が必要です。確実に得点しておきたい問題です。

大問3は、通過算の問題でした。麻布で頻出分野となるため、対策をしてきた受験生も多かったと思います。が、少しひねってあるため注意が必要でした。(1)では、A、Bどちらも「列車Bの長さ分だけ進んだ」点に注目します。(1)で求めたことが、(2)、(3)とつながっていきます。流れに乗って確実に得点しておきたいところです。大問4は、場合の数の問題でした。おもちゃの電車のつなげ方を調べます。電車のつなげ方、作り方に注意が必要でした。特に「全体を逆順にした列車はもとの列車と同じ作り方を考えます」がやっかいでした。この点に注意して(1)を確実に得点しておき、(2)は見送ってもよいかもしれません。

大問5は、平面図形の問題でした。円を切り分けて、長さが等しい部分を考えます。(1)は、切り分けた分を円の中心と結び、おうぎ形にして考えます。(2)は、サシスセの形がバラバラで考えづらいため、それぞれを直線で円を4等分した形に置き換えて考えるとよいと思います。大問6は、麻布らしい調べる問題でした。「操作」の通りに調べていきますが、かなり手間がかかるため、(1)、(2)を確実に得点して、(3)まで取れればよいかなと思います。

大問1、大問2、大問3、大問4(1)、大問5(1)、大問6(1)(2)を確実に得点しておき、残りの時間を自分が取れそうな所に注力すれば、7割は確保できると思われます。